

第7回中口研ゼミレポート

2011/06/15

R08001 相澤祐太

愛媛県新居浜市 第19回環境自治体会議「にいはま会議」

当日の参加者：中口毅博教授、松下研所属・秋津理恵子、環境自治体会議環境政策研究所一同(原さん、増原さん、土井さん、上岡さん、遠藤さん、江崎さん、西田さん、中島さん)、森のエネルギー研究所社員の方々(大場代表取締役、小出さん、角田さん、江川さん)

場所：愛媛県新居浜市 新居浜市役所、市民文化センター、清掃センターetc.

「にいはま会議」概要

環境自治体会議は、環境政策に積極的に取り組んでいる全国約60の自治体で構成されているNGO団体である。この会議は、自治体や団体間のネットワークづくりを推進し、情報を共有することにより、環境政策を推進することを目的に、平成5年に設立された。以来、全国各地の市町村で自治体の首長、職員、議会議員、環境団体や学識経験者、企業の環境担当者など、幅広い分野から約1,000人の参加者を集め、年1回の全国大会が開催されている。今年も愛媛県新居浜市で行われた。

市民文化センター

市民文化センターという市役所の隣にある施設で物販コーナーを任せられた。当日はこの物販コーナーを拠点として活動した。この市民文化センター内には、総会参加者や一般参加者などの受付、荷物預かり所、セレモニーや講演などを行う大ホールがあった。2階では大ホールの入り口以外に新居浜の水(別紙資料)の試飲や引換券で和菓子とお茶を提供している「ウェルカムドリンク」というコーナーが設けてあった。



図3 市民文化センター内部

図1 ウェルカムドリンク



図2 お茶と柏餅

5月24日

この日はいはま会議開催前日で、当日の準備を行った。

主なスケジュール

○いはま会議の全体的なスケジュールの確認、注意事項など

○翌日の準備

- ・大ホールの指定席の紙の貼り付け
- ・ポスターの貼り付け
- ・物販のブースの準備
- ・案内板の作成



図 4 講演会場の大ホール



図 5 販売した書籍など



図 6 文化センターの内装の準備

5月25日

この日はいはま会議当日であり、午前中に残りの準備をやることとなった。

- ・旅館への荷物だし
- ・大会議室・第4会議室の準備(資料・名札の設置等)
- ・昼食の引き取り
- ・物販コーナーの準備
- ・書籍等の販売、荷物のお預かり・別館4階への荷物の移動
- ・夕食運び
- ・職員懇親会

図 10 物販の様子



図 7.8.9 会議室の準備の様子(上二つが大会議室、下が第4会議室)

当日の様子

総会参加者以外でも多くの参加者が見られた。

大ホールではセレモニーや基調講演などが行われていた。関係者と地元の高校生の席が決められており、高校生で席を強引に埋めていた様子はいかがえしたが、一般の席は満席で通路に座ってまで見ている人が多く見られた。

また物販コーナーは惜しくも売れなかったが、無料の資料は全てなくなり、じっくり中身をみて吟味している人が多くみられた。

これらのことから市民の環境意識は自分が考えていた以上に高いという印象を受けた。

当日は準備をしてからは主に物販と荷物の預かりを行った。

荷物の預かりはバスなどで一度にまとまって人が来るのでその時が多少忙しいだけでそれほど忙しいものではなかった。

空いている時間は自由時間としていただけなのでいろいろとまわった。

基調講演を聞き、次にウェルカムドリンクのコーナーをまわった。ここではチケットとの交換で利用できる仕組みだったが、ご厚意によって無料でいただいた。

また外の公園では屋台村が展開しており、地元の食材を使った地産地消の屋台になっていた。他にも大島産の七福芋を使ったとうど焼きや名産である鶏肉を使ったから揚げなど販売していた。

5つしか屋台は出ていなかったがおいしいものばかりで非常に楽しめるものであった。



図 11 屋台村



図 12 地産地消の商品

夜は宿で職員懇談会が行われた。様々な関係者が集まり、楽しくお酒を飲んでいた。

自分と秋津さん、環境自治体会議の方々、森のエネルギー研究所の方々とは 2 階でひっそりとお疲れ会となった。ここでも環境自治体会議の話や環境に関する話であつい話し合いとなった。自分の環境に対する興味がこんなにも小さかったのかと思い知らされたが非常に楽しく有意義な時間であった。

5月26日

この日は10個もの分科会があり、それぞれ行きたい分科会を事前を選びそれぞれの場所にバスでの移動となった。私は第2分科会である清掃センターの録音係としてついていった。

会議室のような場所でパワーポイントを使いながら話題提供者の話を聞く「座学」をメインに行った。



図13 座学の様子

・座学

○ごみ処理の時代は終わった ～貴重な資源発想に変わろう～

真鍋光義(社団法人愛媛県産業廃棄物協会会長)

: 廃棄物の処理を持続可能な社会づくりのために貴重な地上循環資源として活用し、地域の活性化に役立てようというプレゼン。

○ぼかしでつなぐ地域の循環

續木明美(垣生校区婦人会会長)

: えひめ AI-2(あいこ)ぼかしで、地域のコミュニケーションの構築を目的として新居浜市内へ広めようというプレゼン。

ここで「えひめ AI-2」の作成体験が行われた。

えひめ AI-2: 納豆、ヨーグルト、ドライイースト、砂糖、水道水を原料とした環境浄化微生物である。台所のぬめり取りや浴槽の湯垢取り、ゴミの消臭・発酵促進剤などの用途がある。またゴミの堆肥化ができ、土にやさしいので食品リサイクルを実現できる。

図14.15 えひめ AI-2 づくり体験の様子



○家庭用生ゴミ自家処理の全市的普及活動

眞鍋昌裕(にいはま環境市民会議会長)

: 市民と行政とのつながりが自然環境を守るうえで重要となるということを伝えることを目的として事例の紹介。

○生ゴミがお花になって還ってきた・・・農地のない都会の挑戦

吉田義枝(埼玉県戸田市)

: 「生ゴミバケツと花苗 24 鉢交換事業」による循環型社会の構築、美しいまちづくり障害者・高齢者雇用促進などを目的とした市の取り組みの紹介。

・質疑応答

自分の市がやっている取り組みについてなにかアドバイスをという質問など 1 つ 2 つぐらいの質疑が交わされた。

これらの内容を IC レコーダーにて録音した。

事情によりここで帰宅。

その後あった内容

5 月 26 日

フィールドワーク

・清掃センター見学

・県廃棄物処理センター見学

交流会

情報提供：松下研究室所属秋津理恵子

挨拶や出し物があり、立食パーティーのようなかたちで地元の料理などがふるまわれた。

5 月 27 日

情報提供：同上

この日は物販と終了後の会場などの片づけが行われた。初日と違い、最終日なので本も売れたそうである。

感想

率直な感想としていはま会議に参加してほんによかったと思う。環境については講義などで学べるが、実際こうやって活動の様子だったり市民の人などの話を聞いたりできることは行って体験しなきゃわからないことで、それが自分にとって一番収穫だったと感じた。思っていたよりも環境に関心のある人は多いのだと感じることが多かった。就活とかぶってしまい最後までいれなかったことが非常に残念だった。また今回のことを通じて環境自治体会議にとっても興味がわいた。またぜひ参加したいと思う。